動画4.mp3

二谷：はい、皆さん、こんにちは。二谷誠です。

今回も動画を見ていただき、ありがとうございます。

前回の動画では、実際に実践者の方に来ていただいて、

どういう風な形でトレードをしているのか、

またどれぐらい利益が出てるのかっていうことに対してもお話ししていただきました。

で、あとはQ&Aですね。

皆様のお声についてもいろいろお話し聞かせていただいたんですけれども、

実際でも話を聞けば聞くほどすごいなと思うわけなんですけれども、

実践者の方っていうのは、ああいった方が、

ほかにもたくさんいらっしゃるっていうことなんですよね。

北川：そうですね。昨年の7月からこのサラ・トレード・システムというのを

本格的に販売しましたけども、

相当のお客様が現在取引をされて利益を出しておられます。

で、昨年1年間の実績を取りましても、最低証拠金がありますけども、

これ、6倍のパフォーマンスが出てると。

二谷：入れてるお金の6倍になってると、

北川：そうです。まあ私ども、余裕を持ちまして、

まあ100万という出資金であれば、約2倍のですね、

100万が300万になるという余裕を持ってでも、

それぐらいのパフォーマンスが出るという風な商品です。

二谷：なるほど、なるほど。

じゃあ実際に100万円しっかり運用すれば、

1年間で600万になる可能性があるってことですね。

北川：そういうことですね。

二谷：はあ、すごいですね。

600万、それでもまだ利回りとしてはそんなに去年は動かなかったってほうなんですか。

北川：そうですね。去年は商品先物取引、非常におとなしくて、

持ち合いというのがまあ長かったものですから、

今年はやはりこのアベノミクスの最終章でもないんですけども、

いよいよ2年後に消費税が引き上げになると、これはもう絶対なるわけですから、

それに向かって国もいろんな施策をとってきますので、

為替も動くでしょうし、株も動く。

それに合わせてこの商品先物取引も大きく動くという年になると思いますので、

相当相場は動くんじゃないかなと思います。

二谷：なるほど。なんか世間ではね、もう株が暴落するんじゃないかなとか、

そういう話なんかもちょこちょこ聞くんですけれども、

逆にじゃあそういう大きく動く時だからこそ、やっぱりすごくチャンスがあると、

北川：そうなんですね、はい。

二谷：ほう。目指すは1年10倍とかもあり得るってことですか。

北川：あるでしょうね、可能性のある人は ですね。

二谷：はあ、なるほどね。えっ、じゃあ1,000万入れていれば、

1億になる人も出てくる可能性だってあるってことですよね。

北川：そうですね。それがこのレバレッジ商品の特徴ですし、

まあサラ・トレード・システムはそのレバレッジをよく利用した

システムですので、十分可能なことだと思います。

二谷：なるほど、分かりました。

それもやっぱりその商品先物っていう大きなトレンドがあるマーケットと、

このシステムを両方掛け合わすことによって、

やっぱこれだけの高いパフォーマンスが出てるってことですよね。

北川：そうですね。

二谷：なるほど、なるほど。分かりました。ありがとうございます。

いやあ。実際にね、長期的に今まで、もう30年、40年ですか、近く、

北川：そうですね。丸38年になりますね、はい。

二谷：その業界を見てこられて、で、その中で確立してきたということなんですけれども、

以前にもおっしゃってらっしゃったその100万円が6年あれば1億になるっていうのは、

それも全然目指していけるところなんですかね。

北川：そうですね。まあそれぐらいのものは期待していいんじゃないかなと思います。

二谷：なるほど。ちょうど僕、今年子供が小学校に1年になるんですけれども、

じゃあ今年僕、100万円入れておけば、

へたしたら中学校になる時には1億円になっちゃってるっていう、

北川：そうですね。その可能性はもう十分ありますね。

二谷：めちゃくちゃ夢がありますね。

いや、もうすぐにもやりたいなと思うんですけれども。

北川：ええ、もう是非ひとつお願いします。

二谷：で、今回じゃあ参加を実際にしたい方もたくさんいらっしゃると思うので、

今回のその参加方法についてちょっとお話し聞かせていただきたいと思うんですけれども、

北川：はい。今回は初心者の方が非常に多いというのを聞いておりますので、

スクール形式で提供していきたいという風に考えております。

二谷：なるほど。スクール形式ということは、

実際にそのスクールでみんなで集まって勉強しながらやることができると、

北川：そうですね。まあ一般のお客様に提供している売買手段の配信は、

当然ですけども、商品先物取引についての講座、

これはパーフェクト先物取引基礎講座と呼んでますけども、

こういったものを提供したいという風に思います。

二谷：具体的なその講座の内容というのは、

少しじゃあ聞かせていただいてもよろしいですか。

北川：そうですね。これ、毎月1回セミナー形式で3回行いたいと思います。

で、その講座の内容ですけども、まずは先物取引とは何かということですね。

それとこの先物取引というのはもう江戸時代から日本にはあったわけですね。

それの歴史、或いは取引の仕組み、それと証拠金、

これは日経225の先物なんかもそうですけども、

証拠金制度ということでやっておりますので、これについてお話ししたいと。

それと、限月、商品先物取引は何月物を売るとか、何月物を買うとかいう

その月があります。これは限月というんですけれども、これについて詳しく説明したいと。

また、値段が上がっても下がってですね、

どちらに動いてもまだ利益を取れるというのが特徴ですので、

こちらのほうもお話ししたいと。

二谷：上がった時も下がった時も、両方取れるということですね。

北川：そうですね。上げでも下げでも利益を取れるというのが特徴ですね。

それと、各銘柄の損益の計算方法、

いくら上がったらいくら儲かる、いくら下がったらいくら損すると、

或いは手数料はどれくらいかというようなこともご説明したいと思います。

そういった中で先物取引のメリット、それと大事なデメリット、

こういったこともお話ししたいということですね。

で、最後に口座の開設の方法、

そういったことをセミナーでお話ししたいという風に思います。

二谷：なるほど。じゃあもう稼ぎながら、更に学ぶこともできるということなんですね。

北川：そうですね。内容をよく知っていただいて、

それから配信を受けて取引をしていただくというような流れを作っていきたいと思います。

二谷：で、実際にそのスクールの時には、

北川社長にお会いすることって皆さん、できるんですか。

北川：ええ、私がもう直接講師はしますし、

どんなセミナーでも参加してお話ししたいと思いますので、

まあこういう顔ですけども、一つよろしくお願いします。

二谷：（笑）いや、でも実際に社長とお会いして、いろいろお話し聞かせていただくと、

本当にその証券会社時代の裏話だったりとか、面白い話、いっぱい出てきますので、

そういう話もじゃあ、もちろんセミナーの時には、

北川：そうですね。まああまり大きな声では言えないお話があり、

ですから小さな声でお話ししますけども、話したい、

二谷：（笑）なるほど。お会いした時にちょっといろいろ出てくると。

で、懇親会もあるということですので、直接飲みながらね、いろいろと、

北川：そうですね。

二谷：はい。聞いていただければ面白いんじゃないかなと思いますね。

あとスクールのいいところは、僕も何回かスクールに入ったことあるんですけれども、

やっぱりそこで集まる仲間ができるというか、やっぱ同じ興味があること、

同じ志を持って集まってる人が集まるので、

やっぱり投資家同士、あとビジネスやってる人達、

その中でもまたいろんなコミュニティーができて

情報交換もできるじゃないかなと思いますので、

それも含めてすごい楽しみだなと思いますね。

北川：そうですね。やはり相場というのはどちらかというと孤独なものなもんですからね、

できるだけお仲間がいて、

そしてワイワイがやがや相談しながら、

楽しくやっていただけたほうがいいかなと思いますね。

二谷：分かりました。ありがとうございます。

で、あと、もし何か分からないことっていうのが

やっぱり出てくる時ってあると思うんですけれども、

そういった時というのはなんかお電話したりだとかメールとか、

そういうのもしていただけるんですか。

北川：そうですね。まあ弊社のほうでサポート体制引いておりますので、

電話、或いはメール、そういったもので問い合わせていただければ、

まあ電話は弊社の社員が受けます。

またメールは24時間以内に必ず返信しますので、

何か疑問に思うことがあればいつでもメールしていただけたらと思います。

二谷：なるほど。いや、初心者の方にはそれはすごい安心ですよね。

ありがとうございます。

で、あとちょっと僕、一つだけ気になるのが、

もし万が一その3カ月やって結果が出なかったという場合は

もしかしたらあるかもしれないと思うんですけれども、

そういった場合というのは何か、

北川：そうですね。本来我々は3カ月おきに来てんですね。

まあ3カ月あれば必ず利益を出せるということで、

3カ月ごとに切っておるんですけども、

今回は先着100名までの方には6カ月間提供したいと、

二谷：100名の方には6カ月間に延長していただけると、

北川：そうですね。そこ3カ月間延長するということですね。

で、もしこの6カ月間で結果が出なかったら、

次の3カ月間は無料でシグナルを配信させていただきたいと、

二谷：あっ、更に延長していただけると、

北川：そういうことです。

二谷：はあ。で、もし、じゃあその3カ月でも出なかった場合っていうのは、

どうなりますか。

北川：まあ出ないことはないんですけども、

まあ万が一出なかったら、当然もう3カ月延長させて頂きます。

二谷：本当ですか。もう、じゃあ稼げるまで、もう絶対稼がせると、

北川：まあ1年ですから、まあ1年間はこの金額で、

もし儲からなかったら1年間をこの金額で提供させていただくと、

二谷：なるほど、なるほど。

もうじゃあ、稼げるまで面倒みていただけるということなんですね。

北川：そういうことです。

二谷：うわあ、これはすごいですね。分かりました、ありがとうございます。

で、実際に具体的なSTSクラブについてスクールの細かいことに関してなんですけれども、

今この動画の下にバナーが出てますので、

そちらのほうをクリックしていただくとより詳しく詳細書いてありますので、

是非そちらのほうをしっかり見ていただければと思います。

ちょっと僕、気になってたところを少し聞きたいのが、

今回サラ・トレード・システムっていう、

そこから取ってSTSクラブっていう名前が付いてると思うんですけれども、

そのサラっていうのは何か意味があるんですか。

北川：はい、サラというのは、これは沙羅双樹という木があるんですね。

これは平家物語の冒頭の句ですよね。

祇園精舎の鐘の声

諸行無常の響あり

沙羅双樹の花の色

盛者必衰の理を表す

驕れる者は久しからず

ただ春の夜の夢の如し

という、こういう句があるんですけども、今沙羅双樹から取ってる。

つまり相場というものは非常にやっぱり孤独なものなんですね。

まあハラハラどきどき、ちょっと損するとこのまま全部、

全財産なくなった、なくしまうんじゃないかと、そういう不安に駆られます。

また逆に儲けたからといって、「儲かった、儲かった」と吹聴しますと、

その瞬間から相場が逆に行くんですね。非常にこれは面白いもんなんですね。

ですから、勝って奢らず、負けて腐らず、

常に平常心でやっていただきたいということでこの名前を付けました。

また、この沙羅双樹というのは仏教の3代政治、

つまり三つの聖なる木という風に言われておりましてね、

先ほど申し上げましたように非常に苦しい、苦しい、

そういった中から私自身も解放されたいし、投資家の皆様方も解放してあげたいと。

このサラ・トレード・システムを取引していただければ、

そういう苦しみはもうなくなるということで付けた名前なんですよね。

二谷：なるほど。結構深い意味があるわけなんですね。分かりました。

いや、実際にやっぱ僕も投資初めて思うのが、やっぱり下がるんじゃないかなとか、

儲かったら儲かったで、早く利益確定しなきゃとかって、

やっぱ気持ちがすごくハラハラどきどきあるんですけれども、

やっぱりそこから解放される、もう本当に最後の聖地みたいなところですよね。

北川：そうだと思いますね。

二谷：はい。いやあ、本当に。じゃあ気持ち的にも安定して、

長期的に勝ち続けるっていうのが、

このザ・サラ・トレード・システムのサラっていう名前に

やっぱり入ってるってことなんですね。

北川：そうなんです。

二谷：分かりました、ありがとうございます。

ということで今回、本当に僕のほうも、この利回りですね。

1年間で6倍を出してると、しかも短期的なものではなくて、

長期的に勝ち続けられることができるっていう

このサラ・トレード・システムの非常にいいシステムだなと思いますし、

尚且つ今回スクールがつくということですので、

全く未経験の方でもどんどん資産を増やすことができると思いますので、

是非多くの方に入っていただいて、一緒に稼いで、楽しみたいなと思っております。

はい。で、社長、今回じゃあもう絶対稼げると宣言できるわけですよね。

北川：そうですね。まあ絶対という保証はないんですけども、必ず儲かる、

二谷：必ず儲かると、

北川：いう自信は私はあります。

二谷：なるほど。

北川：よろしくお願いいたします。

二谷：ありがとうございます。いやあ、本当に、はい。

ということで、今回これで動画はおしまいになります。

今回ですね、4回の動画、見ていただきありがとうございました。

是非一人でも多くの方にスクールに入っていただいて、

一緒に稼げればなと思いますので、またお会い出来ることを楽しみにしております。

では、本日はどうもありがとうございました。

北川：よろしくお願いします。